

■ (77)円すい形も見方が異なれば「円」「三角形」

北朝鮮によるミサイル発射が失敗に終わった。日米韓などは「国連安全保障理事会決議違反のミサイル発射実験」と中止を訴え、北朝鮮は「人工衛星の打ち上げ」と反論していた。異例ともいえる対応で、北朝鮮は発射場や管制室、衛星も事前に公開していた。

円すい形の模型を思い浮かべて欲しい。真下から見れば「円」に、真横から見れば「三角形」にしか見えない。円すい形を「事実」だとすれば、視点によって見え方が異なる例えになる。この模型を真下と真横だけでなく、さまざまな角度から見て、なんとか円すい形という本当の姿を浮かび上がらせようとするのが、「取材」と「記事」の基本姿勢だ。自らの視点とは別の見方をする専門家らの話も紹介しながら、全体として「事実」に迫ろうとする。書き手の個人的な思いは原則として排除することになる。

一方、コラムは書き手の思いが出発点だ。例えば、富士山について書くとしても、円すい形という形を正確に伝えるのが目的ではない。例えば「真上から見た円形の美しさ」を訴えるために文章構成を考える。という意味では、かの国のニュースはコラム的？(山)